

就労支援のためのアセスメントシート(試作版) の開発(その2) ー就労のための基本的事項についてー

- 武澤 友広(障害者職業総合センター 研究員)
石原 まほろ・佐藤 涼矢・井口 修一(障害者職業総合センター)

本発表の趣旨

就労支援のためのアセスメントシート(試作版)
(以下「試作版」という。)の構成要素のうち、
職場において必要とされる基本的な作業遂行、
職業生活及び対人関係の適応に関する現状
(以下「就労のための基本的事項」という。)を
把握するためのアセスメント項目及び
方法の概要について報告する。

アセスメント項目

【 作業遂行 】

必須項目 「安全に作業する」 など全 3 項目 (必-1~必-3)

選択項目 「正確に作業する」 など全 18 項目 (選-1~選-18)

【 職業生活 】

必須項目 「職場の規則を守る」 など全 8 項目 (必-4~必-11)

選択項目 「簡単な書類手続きをする」 など全 6 項目 (選-19~選-24)

【 対人関係 】

必須項目 「同僚や上司と会話する」 など全 6 項目 (必-12~必-17)

選択項目 「他の人と協力して作業をする」 など全 3 項目 (選-25~選-27)

必須項目と選択項目の分類の根拠

- 障害者を雇用している企業10,000社を対象に質問紙調査を実施(回収率29.7%)
- 既存のチェックリスト(就労移行支援のためのチェックリスト等)の項目について、雇用実績のある障害種類(任意に1つ選択)の障害者を採用する際の重視の程度を評価

必須項目:「チェックした・重視した」の選択率 $\geq 50\%$

選択項目:「チェックした・重視した」及び「チェックした・対象者によって違った」の選択率の計 $\geq 50\%$

アセスメント方法

対象者から提供される情報のほか、場面設定法（作業場面）や職場実習により支援者が把握した対象者の適応状況に関する情報、家族や関係機関から提供される情報、他のチェックリストやワークサンプル、検査等の情報に基づき、就労のための基本的事項の現状を明らかにする。

Step 1 対象者と支援者による評価項目の選択

支援者が対象者の希望・ニーズ、長所、課題、障害特性等を総合的に検討して対象者に提案し、両者協議のうえで決める。

Step 2 対象者による自己評価

- 対象者が自分の現状や課題をどのように認識しているかを把握する段階
- 評価対象は、場面設定法（作業場面）や職場実習、日常生活における具体的な行動

		チェック項目			
必-1	指示された手順に従って作業する				
選択解除 <input type="checkbox"/>		A	B	C	?
<input type="checkbox"/>	① 対象者の自己評価	○ 指示された手順に従って作業できる。	○ 具体的に指示されれば、指示された手順に従ってほしい作業できる。	○ 具体的に指示されても、指示された手順に従えない。	○ 未経験・未確認・不明
<input type="checkbox"/>	② 協同評価：支援・配慮なし	○	○	○	○
<input type="checkbox"/>	③ 協同評価：支援・配慮あり	○	○	○	○
		ストレングスになる			
		<div style="background-color: orange; width: 100px; height: 20px; margin: auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <input type="checkbox"/> </div>			

- 項目ごとに示された事柄が「どの程度できるか・あるか」を作業場面、職場実習、日常生活等での経験の状況に最も当てはまる評価段階を選択

チェック項目	
必-1	指示された手順に従って作業する

評価段階	だいたい できる・ある	あまり できない・ない	未経験・ 未確認・不明	
	A	B	C	?
① 対象者の自己評価	○	○	○	○
目安	指示された手順に従って作業できる。	具体的に指示されれば、指示された手順に従ってだいたい作業できる。	具体的に指示されても、指示された手順に従えない。	未経験・未確認・不明

評価段階・目安に関する留意点

- 目安に示した基準（例：ミスが5%以上30%未満）はすべての対象者や職場の状況にあてはまる絶対的な基準ではない
 - ▣ **就労の可否を示す指標ではない**
- 評価は以下の要因で変動することに注意が必要
 - アセスメントの対象とする作業場面によって表出する行動は変わる
 - 項目や目安の意味の解釈は人によって異なる

- 目安は項目内および項目間で等間隔性が確保されていない
 - ▶ **得点に変換して平均点や合計点を算出することに意味はない**

評価段階および目安は対象者のストレスや課題に関する認識や支援・配慮の効果を見える化し、共有するためのもの

Step
3

対象者と支援者による協同評価

- 支援者と協議して評価を確定する段階
- 対象者と支援者がそれぞれ評価の根拠となる具体的情報（作業場面や職場実習のどのような場面でのどのような行動が観察されたか等）を明確にし、共有した上で協議

チェック項目

必-1

指示された手順に従って作業する

選択解除		A	B	C	?
<input type="checkbox"/>	① 対象者の自己評価	<input type="radio"/> 指示された手順に従って作業できる。	<input type="radio"/> 具体的に指示されれば、指示された手順に従ってほしい作業できる。	<input type="radio"/> 具体的に指示されても、指示された手順に従えない。	<input type="radio"/> 未経験・未確認・不明
<input type="checkbox"/>	② 協同評価：支援・配慮なし	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	③ 協同評価：支援・配慮あり	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ストレングスになる

① 「支援・配慮なし」での評価

一人一人の状態等に応じた個別的な支援や配慮がない状況で各項目の事柄がどの程度できるか

② 「支援・配慮あり」での評価

①の評価で「B」または「C」になった場合のみ、対象者の能力発揮の状況を改善しうる支援や配慮を受けた状況でどの程度できるか

選択解除		A	B	C	?
<input checked="" type="checkbox"/>	① 対象者の自己評価	○ 指示された手順に従って作業できる。	● 具体的に指示されれば、指示された手順に従ってほしい作業できる。	○ 具体的に指示されても、指示された手順に従えない。	○ 未経験・未確認・不明
<input checked="" type="checkbox"/>	② 協同評価：支援・配慮なし	○	●	○	○
<input checked="" type="checkbox"/>	③ 協同評価：支援・配慮あり	●	○	○	○

③ 「ストレングス」の評価

- 「就職のアピールポイント」となる長所があれば、「S:ストレングスになる」と評価する。
- 「支援・配慮なし」の評価で「B」であっても、「支援・配慮あり」の評価で「A」となり、それが「S」と評価されることもある。
- 個人内比較により長所としてアピールすべきことも「S」と評価できる。

状況を具体的・正確に把握するために

- 明確な理由・具体的な情報により評価段階を決定するために用いた方法に関する情報（作業学習や訓練の内容、実習期間、場所、作業内容等）を記述

評価の方法						
<input type="checkbox"/> 面接による聞き取り	<input type="checkbox"/> 関係者からの情報収集	<input checked="" type="checkbox"/> ワークサンプル	<input type="checkbox"/> 場面設定法（作業場面）	<input type="checkbox"/> 職場実習	<input type="checkbox"/> 検査	<input type="checkbox"/> その他（詳細を下の欄に記入）
ワークサンプル幕張版の文書校正課題						

- 「評価段階の決定に至った理由や客観的情報」「支援・配慮ありの評価において実施した支援・配慮の内容」「ストレングスの内容」を記入する自由記述欄を項目ごとに設定

対象者と支援者による評価が一致しない場合の対応

お互いに「どのような行動や態度からそのような評価を行ったのか」を説明し、具体的な行動レベルで現状を整理して、一致点を探る。

- ▶ **対象者にとっては自己理解が、
支援者にとっては対象者理解が深まる**

記載例

チェック項目

選-1 正確に作業する

選択解除

	A	B	C	?
<input checked="" type="checkbox"/> ① 対象者の自己評価	<input type="radio"/> 作業の成果物を確認した結果、ミスが5%未満<ほとんどミスをしない>	<input checked="" type="radio"/> 作業の成果物を確認した結果、ミスが5%以上30%未満<時々ミスをする>	<input type="radio"/> 作業の成果物を確認した結果、ミスが30%以上<よくミスをする>	<input type="radio"/> 未経験・未確認・不明
<input checked="" type="checkbox"/> ② 協同評価: 支援・配慮なし	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 協同評価: 支援・配慮あり	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ストレングスになる

評価の方法

面接による聞き取り 関係者からの情報収集 ワークサンプル 場面設定法(作業場面) 職場実習 検査 その他(詳細を下の欄に記入)

ワークサンプル 幕張版の文書校正課題

評価の理由

作業の成果物を確認したところ、ミスが25%発生

支援・配慮の内容

穴あきルーラーを使用することでミスがほとんど発生しなくなった

ストレングスの内容

穴あきルーラーを使用した場合、一般参考値よりも高い成績を残したことから、誤字脱字等を見つける作業が得意と言える